

研究課題名	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌治療薬とピペラシリン・タゾバクタム併用症例における急性腎障害発生リスクの解明
研究の意義・目的	重篤な感染症例において、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）治療薬であるバンコマイシン塩酸塩（VCM）と、広域抗菌薬であるピペラシリン・タゾバクタム（PIPC/TAZ）の併用は、有用な組み合わせの1つであり、臨床上よく使用されます。一方、VCMとPIPC/TAZの併用療法時には、急性腎障害（AKI）の発生が増加することが、報告されています。VCMの代替となる抗MRSA薬には、アルベカシン硫酸塩（ABK）、テイコブラニン（TEIC）、ダプトマイシン（DAP）、リネゾリド（LZD）、テジゾリドリン酸エステル（TZD）がありますが、これらとPIPC/TAZ併用療法時のAKI発生リスクについては明らかにされていません。本研究では、VCMとPIPC/TAZの併用症例と、VCM以外の抗MRSA薬とPIPC/TAZを併用した症例とで、AKI発生率、その他の有害事象、死亡率について比較検討を行い、より安全な抗MRSA薬とPIPC/TAZ併用療法について明らかにしたいと考えております。
研究を行う期間	研究機関の長の研究実施許可日～2024年12月
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2016年4月～2022年3月に大阪公立大学医学部附属病院に入院され、入院中に抗MRSA薬（VCM、ABK、TEIC、DAP、LZD、TZD）とPIPC/TAZを3日間以上併用の治療を受けた方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 診療情報等：【年齢、性別、身長、体重、基礎疾患、感染症名、血液検査結果（白血球数、CRP、好中球数、血小板数、AST、ALT、 γ -GT、T-Bil、血清Cr値、BUN、eGFR、CK、VCM血中濃度、TEIC血中濃度、ABK血中濃度）、抗菌薬投与量、抗菌薬投与期間、先行薬、併用期間、ICU入室の有無、敗血症の有無、腎障害に影響する併用薬の有無、30日死亡の有無、退院時死亡の有無】
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪公立大学大学院医学研究科 臨床感染制御学のみで行い、他の機関に情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪公立大学大学院医学研究科 臨床感染制御学のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪公立大学大学院医学研究科 臨床感染制御学 研究責任者：掛屋 弘
本研究の利益相反	研究責任者 掛屋 弘は、MSD 株式会社から、講演料を受理しています。利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 臨床感染制御学 (担当者氏名) 川口 博資 電話番号：(06) 6645-3784 メールアドレス：hkawaguchi@omu.ac.jp